

医療法人耕仁会 介護老人保健施設 セージュ新ことに

住所
札幌市北区新琴似町787-2
TEL:011-768-2800

開設：平成9年 独立型 入所100名 通所95名

セージュ新ことにの活動実績

■地域への広報

- 1)新聞折り込み…北海道新聞に19,000部(麻生、新琴似、新川エリア)
- 2)ポスター掲示…100箇所(石狩市役所、近隣のコンビニエンスストア、飲食店、介護老人保健施設など)

■事前説明会参加者数…31名(①8月21日14名、②8月26日17名)

■就労マッチング参加者数…12名

■職場研修参加者数…6名

■継続雇用…5名(常勤換算1.2名)

取組み内容

1. 業務の効率化・介護福祉士等の働き方を検討
2. ジョブマッチングの開催(地域への広報、事前説明会、マッチング)
3. 地域人材への研修



事前説明会では施設長自ら施設について説明。これまで関わりが乏しかった地域住民に丁寧に事業への協力を呼びかけた。



介護助手さんの人生経験を尊重し、「早くしてください」といった言葉は決して使用しないよう職員に注意を呼びかけた。また指導係は1週間に1回、介護助手と面談を行い、出てきた課題や疑問点は職員間で共有を図った。職員に対しても、定期的な個別面談のなかで意見を交わし、介護助手への理解を深めた。

取組みの総括



瀧澤祐希
介護課長

取組みから得た成果「施設全体に生まれた活気」

当施設は離職率が低いという強みがある一方、超強化型の算定といった介護保険制度の変化に即した業務改善や人材育成は、課題の一つでした。そこに介護助手さんが加わってくれたことで、より明確な業務改善に着手することができました。また、いつもは指導される側の若手職員も張り切って教える姿が見られ、施設全体の雰囲気が良くなりましたし、職員の成長にもつながったと思います。利用者さんと年齢も近く、会話の楽しさや安心感を提供できる今やなくてはならない存在です。さらに、広報活動を通じて近隣スーパーや飲食店などにも当施設のことを知ってもらうきっかけにもなり、老健に求められている地域貢献の足がかりになりそうです。



取組みのなかで生じた課題「理解不足で不公平を訴える職員も」

モデル事業のため、職員も介護助手を導入するイメージがままならず、マニュアルを作成したものの、指導する職員によって依頼する介護業務が異なるといったことがありました。

また、入所者様も介護助手と介護福祉士の業務内容の違いについて理解することが難しく、「どこまで頼んでいいかわからない」という声も挙がり、混乱が生じました。



今後について「引き続き独自で介護助手を募集」

有資格者によるケアの専門性の特化、そして地域人材の掘り起こしという観点において、今回非常に手応えを感じました。引き続き同条件のもとで増員し、新たな工夫や新しい業務改善を考えていくつもりです。年々人材確保が難しくなるなか、これだけの人数が集まって継続雇用に結びついたことは、徐々に明るい兆しが見える取組みでした。今後は介護助手さんのなかから、資格を取りたいという方も出てくればと期待をかけています。

介護助手さんから

「利用者さんから教えられることもたくさん」

森田尚美さん(56歳)

一昨年、新聞記事で介護助手事業のことを知り、近くで導入してほしいと思っていたところにセージュさんの募集があり、すぐに応募しました。長年、母の介護をしてきたこともあり、少しずつですが職場に溶け込むことができました。同じ介護助手の方々とも協力しあって働くことができていますし、やりがいのある仕事だと思います。利用者さんから教えられることもたくさんあって勉強になります。

